

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090100262		
法人名	認定特定非営利法人じゃんけんぼん		
事業所名	グループホームじゃんけんぼん大利根前橋		
所在地	群馬県前橋市上新田町881		
自己評価作成日	令和3年12月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和4年4月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「一人ひとりにやさしくフィット、陽だまりに笑顔の咲く家」を事業所の強みとして掲げ、ここに寄り添うケア、ご家族・地域との絆を守る支援、ガッツを引き出す自立支援を目指している。  
 食事の片付け、掃除、洗濯物たたみなどご利用者と職員が共同で家事を行い、個々の能力を発揮できる役割づくりに努めている。  
 コロナにより家族との面会、地域との交流、週1回カフェ活動も警戒度によりカフェを中止、ガラス越しに面会、屋外での面会、身内カフェ等現在も注意を重ね対応している。ただ施設内での行事、個別での散歩や外出を行いご利用者を安全に外に連れ出す努力をしている。ご利用者が今まで築いてきたつながりの継続と新たなつながりの構築を支援できるように地域との関係づくりに力を入れ、日々のケアに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所設立10年目を迎えた節目として、職員と話し合い、地域とのつながりを持ち続けられるように理念を見直し、「軒下マップ」(生活支援マップ)を作成して、実践に向けた取り組みが行われている。それに加え、法人事務局から「いいね記録」として職員への記録について指導があり、職員の日々の介護記録の内容に、「goodポイント」として全事業所に発信するシステム活用が行われている。また、食事担当職員が中心となり、手作り野菜や食材を工夫し、利用者・職員皆で協力した食事づくりから食事の時間づくりが行われている。さらに、利用者個々に合わせて部屋替えを行い、入り口に写真や手作り品を飾り部屋を間違えないようにするなど、利用者が生活するのに安心した環境づくりが行われている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所全体の理念として「私たちは、慣れ親しんだこの町で、笑顔の絶えないあなただけの暮らしをサポートします」を掲げ、その方らしい暮らしの実現を目指している。他、GHとして目指すものとして「事業所の強み」を職員で作成し、事業所内に掲示している。	事業所の強みをもとに、地域との関わりを力を入れており、事業所10年目の節目を機会に、職員全員で考え話し合いを行い、新たな理念を作り、実践に向けた取り組みを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍となり近隣大家族の利用も中止や催し物もできなくなり、交流が図れていない。ウォーキングバス(下校時の見守り職員のみ)、自治会の有価物回収への協力は行っている。	近隣大家族の利用は、コロナ禍における県や市の動向を見ながら始めている。認知症ボランティアの歌や体操・アコーディオンの先生による演奏などの触れ合いを行っている。また、小学生の下校時に合わせての旗振りや自治会でのゴミ出しを、職員で行っている。認知症相談のチラシを回覧板で回して、周知している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	週一回のカフェの開催もできなくなり、施設内での集まりのみになっており、地域の人々からも参加を見合わせる方がほとんどです。近隣大家族も活用できていなかったが警戒度に合わせて身内カフェ開催、近隣大家族の利用等行う。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は紙面開催になっています。ご意見を頂いています。また警戒度により会議を行え話し合いを持つことが3回できた。	コロナ禍、県の動向をみながら市に相談して開催し、家族からの意見に管理者が対応している。議事録を家族に送り、事務所の取り組みを報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議が紙面開催になり、伝えられていないことがある。	コロナ禍のため、事業所の空き状況や、日々の利用者の体温を毎日メールで連絡している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化委員会を設置し、定期的に現状把握と職員研修を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。居室には鍵がなく、玄関は夜間以外施錠せず、常に入出りが自由な環境である。	開所当時から身体拘束はせず、玄関の鍵も開放されており、不穏な利用者には、職員同士の声かけや見守りで常に関わりを築くなど、介護ケアで取り組んでいる。また、毎日の服装を写真を撮り、万が一に対応できるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開催し、知識の補充や情報共有に努めている。声掛けの仕方や対応方法など職員同士が気づきを伝え合える関係性を築いている。法人内で虐待委員会を立ち上げ担当職員が参加しホーム内の会議で話し合いやチェックリストを使用し注意喚起している。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を活用されている方がおり、後見人、キーパーソンと連携して支援にあたっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書の該当箇所を示しながら口頭で説明している。特に自立支援に関する事項とそれに伴うリスクに関しては、契約前の見学時と契約当日の面談時に十分な説明と同意を得てから契約を結んで頂くように配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍となり入居している利用者との面会もガラス越しとなり、個々に家族とは連絡を取り要望や意見を運営に取り入れるように努力している。	家族からの要望は、来所時に伺うか、近況報告書に家族からの記入欄を設けて記入していただいている。ガラス越しでの面会を開始するなか、暖かい日は透明のビニールカーテンにして、声が聞こえやすいようにするなど対応している。家族から桜と一緒に見たいという要望にも応え、家族と一緒に出掛けられた事例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている業務会議や日常業務の中で随時話し合いを行い、職員の意見や提案を反映できるよう心掛けている。	月1回の会議や、法人の幹部会議で、職員の意見を取り上げている。また、目安箱を設けており、直接、法人の人事担当者に届くシステムがある。最近では、超過勤務について取り上げられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、年に2回、職員に対し本人評価を実施させ、個別の実績や要望の把握に努めている。業務時間内にも事業所の訪問をし、職員や利用者との交流を心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な分野の研修の情報を伝え、研修への参加も積極的に促している。職員の経験や力量を踏まえスキルやモチベーションがアップするよう働きかけている。法人研修担当者によるフォローアップや幹部会議を通じての管理者への指導もおこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、同業者間の交流や研修・勉強会に参加する機会を持ち、サービスの向上に努めている。 毎年、小規模多機能・グループホーム大会に参加し事例の発表を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言葉に耳を傾け、様子を観察しながら状態把握に努めている。家族とも連携し、これまでの生活歴なども踏まえ、安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には、これまでの生活状態・心身状態を聞き取り、家族の不安や要望を明確にしたうえで、ホームでどのように過ごしてもらいたいのかを最終的に伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学は外からのみですが、要望と必要な支援を見極め、他のサービス利用も含めて協議している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員は共に生活するものとして、共同で家事を行ったり、人生の先輩として相談にのってもらったり、生活の知恵を教えて頂いたりしている。また、利用者から受けた行為に対しては、必ず感謝の気持ちを伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加、体調や状態の変化があった際の連絡・相談などご協力いただき、共に本人を支えていけるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナがもう少し落ち着き個別で出かけるプランもあるので歩行力が落ちないような支援を心がけている。	利用者ご本人の周囲を取り巻く環境のマップとして「軒下マップ」を、作成している。利用者中心に馴染みのあるクリニック・温泉・スーパー・美容院など生活支援が出来るマップを作成し、職員全員で共有して、関係が続くよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性が円滑にいくよう、職員が必要に応じて間に入っている。利用者の席は本人の意向や相性などを客観的に見て決めさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状態の変化で退居された方や看取りをさせてもらった利用者家族とも連絡が取れる関係を築き、関係性の継続を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の意向をお聴きし、できる限り添うように努めている。意思が伝えにくい方に関しては、生活歴を紐解いたり、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。	入居時はもちろんのこと、日々の会話から思いを把握するようにしている。会話がむずかしい方は、態度や声のトーンで把握するようにしている。そうしたなか、終末期に向けてや、看取りに対する考えも、本人そして家族からの話を職員全員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時にアセスメントをし、状態の把握をすると共に、ご本人やご家族から以前のお話を伺いながらセンター方式などのシートも活用している。以前利用していた施設・病院とも連携し情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解し、行動や言葉、表情からそのひと全体の把握に努めている。気づいたことは記録に残し、職員全員が共有できるよう心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別の介護日誌と利用者からの聞き取り、家族の意向を反映させモニタリングし、ケア会議で皆で話し合い再アセスメントして介護計画を作成している。	ケアマネージャーが中心となり、モニタリング・アセスメントを月1回のケア会議で行い、ケアプラン見直しは、3ヶ月に1度の割合で行っている。体調に変化がある時は追加や見直しをその都度行い、出来た計画は、家族の来所時や電話で説明し、家族に確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌には、日常生活での他者との関わりの様子や発語や行動、表情、関わりの中で気づいたことなど記録し、申し送り等で職員間で共有しケアに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共用デイや併設する小規模多機能のご利用者との交流は行っているも、地域住民とのつながりがもてていない。日頃より医療との連携も密に取り、状態の変化に対応できるよう協力体制を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事やお祭りもコロナで中止になり参加できず豊かな暮らしを楽しむ支援は来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は入居前のかかりつけ医の受診として、月1回往診する協力医に移行する方が多い。診察時の内容を記録し、職員間で共有している。家族には必要時電話で報告している。	利用者のこれまでのかかりつけ医や事業所の協力医の往診がある。それ以外の診療科の受診は、家族・職員が付き添って行われている。受診の際に、日々の状況は医師に口答やメモ・FAXで伝え、受診後の結果や往診の内容は家族に電話で伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設する小規模多機能の看護師と連携し、利用者の状態の変化や気づきを伝え、相談や助言をもらう関係性を作っている。 外部の訪問看護とも医療連携体制を結んでおり、週1回訪問してもらい、体調のチェックや健康上の相談等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は日常生活の留意点など入院先に伝え、利用者の受け入れがスムーズに行えるよう努めている。入院中は、可能な限り職員が面会し関わりを持つことで認知症状の緩和に努めている。家族・医師と相談し、事業所でも対応可能な支援を伝えるなどして出来るだけ早期の退院が見込めるよう働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、及び必要に応じて意向確認を行っている。本人・家族・協力医・事業所が連携し、話し合いながら方針を決め、合意書を書き合っている。職員全員で共有し意向に添うよう努めている。	入居時に、意向の確認はもちろんのこと、状態の変化により、主治医から「重度化した場合における対応に係る合意書」をもとに、家族と事業所・職員で確認をしてその後の支援が行われている。訪問看護師との連携をとり、看取りが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受け、緊急時に備えている。緊急連絡先、救急搬送の手順を一覧にまとめ、緊急時に慌てる事のないよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、併設する小規模多機能と合同の避難訓練を行っている。夜間想定避難訓練も行い、通報・避難誘導・消火の方法を身につけるよう努めている。近隣住民や地域代表、民生委員の方に運営推進会議への参加や通信の配布を行うなどして事業所に対する理解を得て、協力し合える関係づくりに努めている。法人内災害委員会立ち上げ、担当職員が参加し事業所に災害時の取り組んでいる。	年2回の火災訓練はもちろん、水害訓練も消防職員の指導のもと行い、利用者も参加して行っている。地域の元消防職員や近隣者も消火器訓練などに参加し、避難した利用者の様子を見守るなど、協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみのある言葉がけの中にも、目上である事を常に心がけ、コミュニケーションをとるよう努めている。排泄時の声かけに注意し、入浴時は個別対応が基本である等の一人ひとりの尊厳を大切に支援を行うようにしている。	呼名は、基本的に苗字で呼んでいる。一人ひとりに合った声かけをさりげなく行い、利用者との対応を大切に支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とは話す機会を多くとるよう心がけ、本人の意向を聴くよう努めている。その日に着る洋服・買い物・散歩コース・飲み物の選択など判断・決定する機会と捉え活かしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、ベランダでの日光浴など一人ひとりが自由に過ごせるよう、個々のペースや体調に配慮しながら、本人の希望にそえるよう柔軟な対応を心掛けている。また、本人のやる気や残存機能を発揮できるような役割づくりにも取り組み生活の張り合いを作るよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自宅から持参したお好きな服を着用していただいている。できる方には自由に着こなしていただき、できない方はご本人のイメージに合わせて職員が見立てている。定期的に訪問美容に来てもらっているが、行きつけの理美容店がある方はお連れしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材切り・盛り付け・下膳など、食事に関連する作業を協働で実施している。自然と役割ができ、一連の流れができていく。毎週土曜はご利用者と職員で手作りのおやつ作りに取り組んでいる。	業者の栄養士がメニューを作成し、それをもとに食材が届けられる。日々の利用者との関わりから、食べたい物を把握し、食事担当職員がその食材を工夫し、利用者と職員で準備から調理、片付けまで一人ひとりが出来る事をサポートしながら行っている。また、毎月お好み食を、行事担当職員が実施している。職員も同じ食事を食べ、楽しいひと時を共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材宅配業者を利用しており、栄養士による献立作りとなっている。食事は個々に合わせて提供している。カロリー制限や禁食などの制限がある方に関してはそれに合わせたものを提供している。食事形態も個々の嚥下機能に合わせて、刻み食やミキサー食の提供もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。その方のできることを見極めながら、必要に応じて介助している。義歯使用の方は入れ歯洗浄剤を使用し口腔衛生に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努め、排泄周期に合わせてトイレの声掛け・誘導・介助を行っている。可能な限りおむつの使用を減らし、トイレでの排泄を基本としている。	トイレでの排泄を基本に、一人ひとりの排泄パターンを把握して、毎食前後にはさりげない声かけを行い、トイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は野菜を多く取り入れたものを提供している。個々の排便日や水分量を記録し、職員間で共有している。軽運動や散歩など、からだを動かす機会を多くとるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には入浴日を決めているが、希望がある方に関してはできる限り対応している。	週2回の入浴日は決めているが、誰が今日入るかは決めずに、本人の意思を尊重して入浴につなげている。毎日入浴できる準備はしており、汚れてしまった時には、その都度入浴できるようにしている。個浴で、季節のゆずや入浴剤を利用者個々に選び使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や生活習慣、体調などを考えながら、無理のないよう必要な休息がとれるよう努めている。起床・就寝時間も個々に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の様子を日誌に記録するとともに処方薬の説明書もファイルし、職員間で共有している。服薬内容が変わった場合、薬剤師から解説してもらい、不明な点があれば随時電話にて連絡相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から、本人が望む事・出来る事をして頂くよう努めている。毎週ご家族との外出を楽しまれている方、毎日ベランダで日光浴される方など、それぞれ役割や楽しみを持って生活できるよう支援している。嗜好品についても本人の楽しみとして出来るだけ対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、近隣の散歩やウッドデッキでの日光浴を行っている。桜見物、紅葉狩りには個別で出かけた。今後も状況を見極めながら、ご利用者の希望にそった外出支援を行っていきたい。	散歩は、全員で車いすも使用して、公園・地藏参り・コンビニエンスストアなど、感染対策をして外出している。ドライブは秋の紅葉狩り、桜の花見などに出かけ、帰宅願望の強い方や困難事例時には、利用者のひもときシートを使い、自宅への外出支援等を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者には財布を所持してもらい、金銭の自己管理をして頂いている。買い物に出かけ、ほしいものを自分で購入していただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在行っている方はいない。過去、本人の意向を尊重し、ご家族に電話をする機会をつくったことで安心してホームで過ごすことができていた利用者がいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	吹き抜けの天井を利用して季節が感じられる飾り付けをしたり、花を飾るなどして季節感を感じていただけるようにしている。 オープンキッチンの為、調理している音や香りがご利用者に届くことで自然と食欲が湧くよう生活感や家庭的な雰囲気を大切にしている。	天井は高く開放感があり、季節の花を飾り、貼り絵を壁に貼って、彩りのある空間がつけられている。また、利用者に合わせた手作りの家具(机と椅子)があるなど、工夫して環境づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にはテーブル席やソファを設置し、くつろげる工夫をしている。ホールと離れた場所には畳スペースがあり、こたつを置くなどして、ご利用者が思い思いに過ごせるよう工夫に取り組んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや鏡台など慣れ親しんだ家具等を居室に持ち込んでいただくように入居時から働きかけている。	事業所からはベッドを準備し、それ以外の馴染みの布団やタンス、仏壇、枕、椅子などが、一人ひとりに合わせて配置している。たばこや晩酌は、希望者には対応して楽しめるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールスペースは広めに確保し、バリアフリーとなっている。廊下・トイレ・浴室には手すりを設置し、安全な造りとなっている。家具の配置も自立歩行の方、車椅子を利用されている方の移動のしやすさを考慮して工夫している。		